

P1~3 ミニ企画展 新収蔵品展

P4 ミニ企画展 大津歴博やきものコレクション
昭和30年代のカラー写真を大津百町館で展示しました。

P5 学芸員のノートから

P6 新指定文化財の特別公開について

第112回ミニ企画展

平成25年度 新収蔵品展

平成26年4月22日(火)～6月1日(日)【休館日:月曜(5/5を除く)、4/30、5/7】



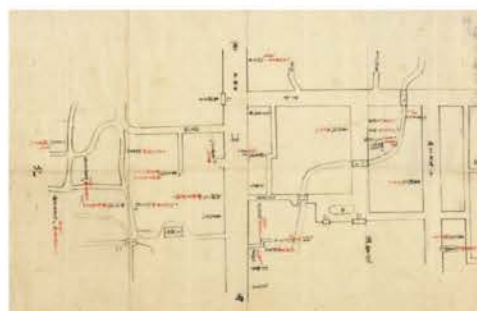
購入1 大津絵 藤娘



購入2 大津絵 松に鷹



購入3
俳画「風一過」
山元春挙筆



購入5 坂本旅宿絵図



購入6 彦根藩大津蔵屋敷之図

歴史博物館では、毎年ミニ企画展コーナーにおいて、新たに収集した資料を紹介する「新収蔵品展」を開催しています。平成二五年度は、初期の大津絵藤娘や松に鷹をはじめ、ご当地日本画家の山元春挙の作品、膳所藩校遵義堂の師範頭取であった黒田梁洲・麴廬関係の資料類、彦根藩の大津蔵屋敷の詳細な絵図、特別謎えの大ぶりの大將人形、陸軍少年飛行兵学校の装備品、そして近現代の大津を物語る古写真の数々まで、大津の歴史と文化を語るうえで、大変貴重な資料が新たに加わりました。本展では、大津の様々な歴史の一端を、新収蔵品によって触れていただくとともに、皆様のご家庭に残されている資料についての情報をお寄せいただく契機になれば、幸いです。

〔購入〕

1 大津絵 藤娘 1幅 江戸時代(一七世紀)

江戸前期にさかのぼる初期の藤娘。右向きの見返り姿です。肉筆浮世絵風の作品で、大津絵ではあるものの美人画としての完成度も高く、優れた作品です。

2 大津絵 松に鷹 1幅 江戸時代(一七世紀)

希少な画題であり、かつ古い作例。衰えぬ繁栄の象徴である松に、武威を天下に示す象徴の鷹がとまることで武門の誉れとお家繁栄を願う画題です。

3 俳画「風一過」 山元春筆 1幅 大正時代

近代京都画壇の雄、山元春筆は俳句・狂歌好きで、自詠集「蘆花浅水」を自費出版したほど。本作は屈託のない俳味で軽妙に季節感を表現しています。

4 黒田梁洲・麴廬父子関係資料 一括(三一件)

膳所藩校・遵義堂の師範頭取の黒田梁洲及び子で蘭学師範の麴廬に關係する写本類。梁洲の詩文集や麴廬の履歴書、孫の梁太郎の日記も含まれます。

5 坂本旅宿絵図 1鋪 江戸時代(一九世紀)

大津市坂本の各里坊に朱筆で「中井」「棟梁」「御取調役」「御勘定方」「山上行普請役二人」とあり、延暦寺の普請にかかる宿所配置と考えられます。

6 彦根藩大津蔵屋敷之図 1鋪 江戸時代後期

旧橋本町(現浜大津一丁目)には、彦根藩大津蔵屋敷がありました。本絵図には屋敷内部の敷地割や米蔵、稲荷社などの配置が詳しく記されています。

〔受贈〕

1 大將人形・旗持人形 2軀 文化六年(一八〇九)

西村甚三郎・正一氏寄贈
四条柳馬場西入の人形工師、玉屋久治郎の制作による大ぶりの大將・旗持人形。依頼者・制作者・制作年月・支払金額等が箱書きされる貴重な人形です。

2 版彩色百人一首歌かるた 1組 江戸時代(一八世紀)

高津豊氏寄贈
歌かるたは木版手彩色で制作され、各歌仙ごとに版木が異なる少々高価なかるたです。一方、親指大のひなかるたは数パターンの版木で制作された普及版です。

3 木版百人一首ひなかるた 1組 江戸時代(一八世紀)

高津豊氏寄贈
歌かるたは木版手彩色で制作され、各歌仙ごとに版木が異なる少々高価なかるたです。一方、親指大のひなかるたは数パターンの版木で制作された普及版です。

4 矢立 一括(二〇〇挺) 江戸(明治時代(一九世紀))

和田保氏寄贈
携帯筆記具であった矢立のコレクション。実用本位のものから工芸品的なもの、中には方位磁針内蔵型や極小硯付属のものも含まれています。

5 江州堅田物語 1冊 天和三年(一六八三)

木村環氏寄贈
堅田住の中村重吉著。内容は、旅人が堅田で出あった老人に土地の由緒を聞くという設定で、堅田の由緒の基礎となる貴重な記録が紹介されています。

6 大津陸軍少年飛行兵学校装備品 7点 昭和

下村誠氏寄贈
戦時中、現県立大津商業高校付近一帯には陸軍少年飛行兵学校があり、同校で使用していた鉄カブトや陸軍軍帽、水筒、革製カバンなどの装備品です。

7 入江家資料 一括(一九九点) 明治(昭和)

入江壽子氏寄贈
大津・京都・大阪の商店引札や県立大津高等女学校の卒業写真、教科書など。正月の引札は凝った図柄の七福神ら縁起物です。

8 映画館資料および戦時資料 一括(一四四点) 大正(昭和)

個人寄贈
映画館・稲荷座(後の帝国館、現松本二丁目)で上映された映画の題名が列記された手帳や、寺町通り付近の戦時中の防空訓練風景写真等の資料です。

9 飛田家戦時資料 一括(三三三点) 大正(昭和)

飛田源之丞氏寄贈
寄贈者のお父様である飛田源吾氏が、満州に従軍されたときの戦争関係資料。勲章や勲記、記章や軍靴などがあります。

10 東海道線踏切改良工事写真アルバム 2冊 昭和

谷村芳郎氏寄贈
昭和三十一年の東海道線電化で走行本数が増え、踏切渋滞を引き起こしたため、同四〇年頃に実施された橋梁化工事前後の写真一六〇枚。沿線風景変遷を知る好資料です。

11 昭和御大典記念写真帳 1冊 昭和三年

大橋浩三氏寄贈
昭和三年の御大典記念を祝した写真帳。県内各小学校教職員の整列写真、学校の旧校舎の一部が収録され、興味深い写真資料です。

12 西村榮次郎氏撮影写真 一括(一三九点) 昭和三〇年代

西村彰一郎氏寄贈
日本でカラー写真が普及しはじめた昭和三〇年代に、大津市中心市街地や市内社寺等の観光地を、故西村榮次郎氏が撮影した大変貴重な写真です。

13 中野家資料 一括 明治(昭和)

中野満氏寄贈
京町通りで商店を営んでおられた中野家の資料。特に明治一七年起筆の「記録簿」には、同二四年に勃発した大津事件の生々しい記録が見えます。

14 龍吐水 1基 天保一三年(一八四二)

唯泉寺寄贈
龍吐水は江戸時代の消火器。「天保十三壬寅初冬新調 後在家町 唯泉寺」の箱書があり、天保一四年竣工の唯泉寺本堂のため購入されたと考えられます。



受贈 2 版彩色百人一首歌かるた



受贈 1 大将人形・旗持人形



受贈 3 木版百人一首ひなかるた



受贈 5 江州堅田物語



受贈 4 矢立



購入 4 黒田梁洲・魏廬父子関係資料



受贈 8 映画館資料および戦時資料



受贈 7 入江家資料



受贈 6 大津陸軍少年飛行兵学校装備品



受贈 11 昭和御大典記念写真帖



受贈 10 東海道線踏切改良工事写真アルバム



受贈 9 飛田家戦時資料



受贈 14 龍吐水



受贈 13 中野家資料



受贈 12 西村榮次郎氏撮影写真

大津歴博やきものコレクション

会期：6月3日(火)～7月13日(日) 休館日 月曜日、6月24日～6月26日

良質の土が取れる近江は、古代の須恵器や土師器、白鳳・奈良・平安時代にかけての屋根瓦にはじまり、中世から作陶の盛んであった六古窯のひとつ信楽焼がありました。そして、江戸時代初期以降、多くの民窯やいくつかの藩窯が開かれ、抹茶器や煎茶器をはじめ、さまざまな器が焼かれていました。本展では、膳所焼・梅林焼・瀬田焼・比良焼・信楽焼・湖東焼をはじめ、歴博収蔵品の陶磁器の数々を展示いたします。



比良銹絵芦文茶碗 本館蔵



湖東染付草花文水注 本館蔵

報告

昭和30年代のカラー写真を大津百町館で展示しました

国産カラーフィルムが一般に普及し始めた、昭和30年頃の市内の様子を撮影した貴重なカラー写真を展示する写真展「総天然色!!昭和30年頃の天津」を、3月23日から4月6日まで、大津百町館（丸屋町商店街内）で行ないました。本展は、本年3月、博物館に寄贈を受けた故西村榮次郎氏撮影の写真をご披露するため、開催したものです。

会場では、湖岸の埋め立てが進む石場駅といった町の風景や、開館まもない滋賀会館、市制60周年の記念パレードなど、多彩な写真、約50点を展示しました。ご覧いただいた方々からは、滋賀会館で見た映画の話や、当時の町や生活の様子など、様々な思い出をお話いただきました。

展示した写真の一部は、4月22日から開催する「新収蔵品展」でも展示します。高度経済成長期にむけ、大津が大きく変わり始めた頃の貴重な写真を是非ご覧ください。

(本館学芸員 木津勝)

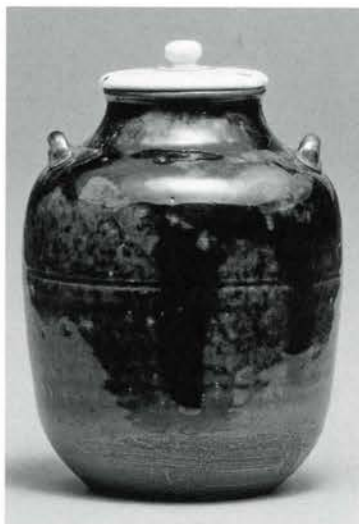


膳所焼茶入にみる寛永の茶の湯文化

遠州七窯のひとつとされる膳所焼といえば、お茶を嗜む方は、いわゆる「綺麗さび」的な作行の茶器、特に茶入や水指を思い浮かべられると思います。しかし、膳所焼は、小堀遠州（政一、1579-1647）の関与以前に開窯されており、また、遠州好みの茶器以外の焼成も多かったことが、伝世品や史料、窯跡の発掘調査で出土した陶片類から判明しています。一方、相国寺僧、鳳林承章ほうりんしょうしょうによる江戸前期の重要な記録『隔莫記』かくめいき寛永16年（1639）6月9日の条には、「自北条久太殿 書状并膳所焼茶入給。所望之也。小堀遠州之目利蓋・袋 遠州殿被申付之茶入也」とあるなど、遠州自らが贈答向けの膳所焼茶入と蓋・仕覆しふくを選定しており、彼の好みになかった茶器が焼成されていたことも事実です。では、膳所焼における茶入の特徴は、どのようなものか、大まかに言えば、まず器形は、高い轆轤ろくろ技術による、シャープで細身な肩衝や耳付茶入や、小ぶりの文琳茶入などが多く、施釉は、下地の柿釉の上に鉄釉をかけ、錆びた調子を端正にみせる肌に、一筋の釉垂れをみせる景色で、胴下の土みせも、きれいな一文字で出しています。概して、瀬戸茶入の作行を基調にしつつ、より唐物に近づけた精緻な轆轤仕上げと釉薬のあがり、そこに、和様の洒脱さや軽みを加えた折衷的な茶器としている点が特徴といえるでしょうか。ちなみに、遠州の茶の湯は、濃茶を草庵の小座敷で、鎖の間で唐物趣味の座敷飾り、書院で王朝趣味の飾りを行い、新興茶人へ、文化・道具全般を啓発する茶でもありました。遠州の肖像画を描いたことでも知られる松花堂昭乗しょうかうどうしょうじょうなども同様の趣向の茶室を構え、茶会を開いています。

本館蔵の膳所茶入も、作行が折衷的なだけでなく、銘は古歌にちなんだものや、貴頭の詠歌に依っているものや、箱裏には、和歌の小色紙が貼付けてあるものもあります。同時代の他の茶入同様、総合的な寛永の茶の湯文化が、小さな茶器に凝縮されています。できれば、博物館や美術館の展示ケースではなく、寛永期スタイルの茶室空間に置いてみたいものです。

（本館学芸員 横谷賢一郎）



膳所耳付茶入 銘童女 本館蔵



膳所肩衝茶入 銘木乃間 本館蔵



膳所耳付茶入 銘丹霞
菅沼曲水染筆 蓋裏和歌小色紙

新指定文化財の特別公開について

会期：平成26年5月23日(金)～7月13日(日)



銅造観音菩薩立像 奈良時代
大津市下阪本・眞光寺蔵



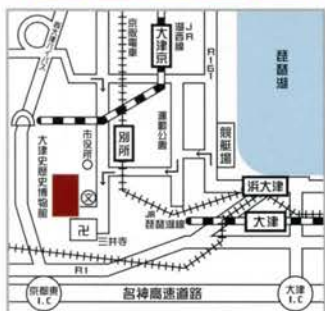
木造観音菩薩立像 平安時代
大津市京町・九品寺蔵

このたび、大津市下阪本・眞光寺（天台宗）の「銅造観音菩薩立像 1 軀 奈良時代」と大津市京町の九品寺（浄土宗西山禅林寺派）の「木造観音菩薩立像 1 軀 平安時代」が、それぞれ重要文化財に指定されることになりました。

これを記念して、大津市歴史博物館の常設展示室 1 階において特別公開を実施します。

臨時休館のお知らせ 6月24日(火)～6月26日(木) 館内の修繕および展示替のため休館いたします。

ご利用案内



交通機関

- ・京阪電鉄石坂線別所駅 徒歩5分
- ・JR 大津京駅 徒歩 15 分
- ・JR 大津駅、バス 10 分別所下車

■駐車場 約 70 台（無料）

■常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	270円	210円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	130円	100円

- ◆大津市内在住の 65 歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆土曜日に限り、小・中学生は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

■開館時間

午前 9 時～午後 5 時（展示室への入場は午後 4 時 30 分まで）

■休館日

月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館）
祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）
年末年始（12月27日～1月5日）
その他、業務の都合により休館する場合があります。

—— 歴博カードのご案内 ——

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。（1年間有効）

料金	一般	高大学	小中学
	2,000 円	1,500 円	1,000 円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町 2 番 2 号
TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666

<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>